

白銅株式会社(7637)

2025年3月期 決算説明資料

2025年5月14日

目次

1. 2025年3月期 決算内容	P.2
2. 2026年3月期 業績予想	P.17
3. 重点戦略の実施状況	P.20
4. サステナビリティ経営の取り組み	P.24

1. 2025年3月期 決算内容

決算ハイライト

売上高

66,410百万円
(前連結会計年度比+16.0%)

売上総利益

10,573百万円
(前連結会計年度比+14.1%)

経常利益

3,214百万円
(前連結会計年度比+12.9%)

2025年3月期サマリ

<売上高>

- ・施策の着実な実施によるシェア拡大を主因に、商品単価の上昇、生成AI関連および中国向け需要拡大による半導体製造装置業界向けの販売量増加も影響し、売上高は前連結会計年度比16.0%増収。
- ・海外セグメントにおいても、中国・タイ・北米すべてのセグメントで売上高が増加。

<売上総利益>

- ・売上高増加による増益に加え、原材料市況の影響による棚卸資産影響額差益の増加等により、前連結会計年度比14.1%増益。

<経常利益>

- ・営業外収益の減少など減益要因はあったものの、営業利益の増加により前連結会計年度比12.9%増益。

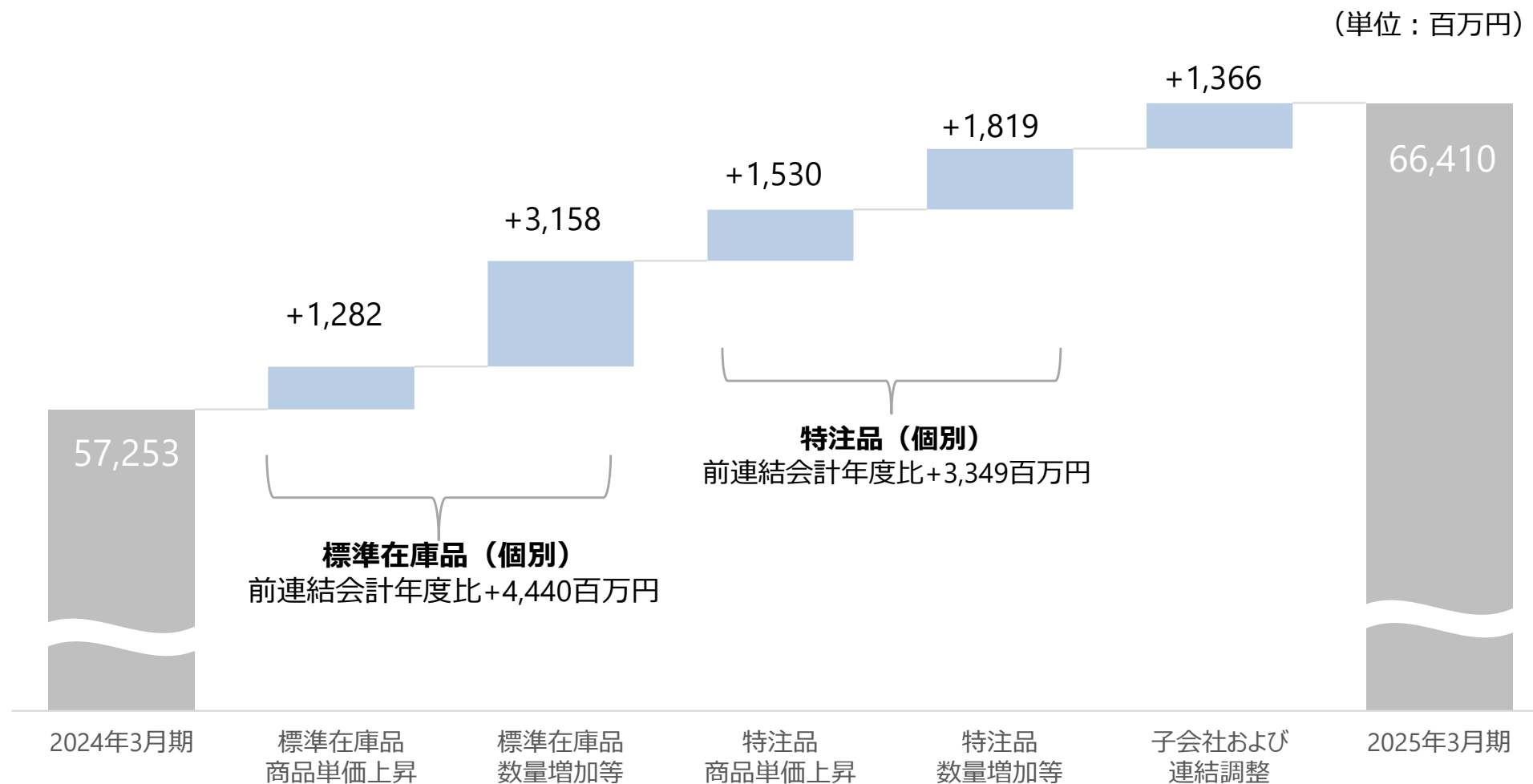
連結損益計算書（PL）サマリ

（単位：百万円）

	2024年3月期	売上高 比率	2025年3月期	売上高 比率	増減率	増減額
売上高	57,253	-	66,410	-	16.0%	+9,157
標準在庫品	34,460	60.2%	38,964	58.7%	13.1%	+4,503
特注品	22,792	39.8%	27,445	41.3%	20.4%	+4,653
売上総利益	9,267	16.2%	10,573	15.9%	14.1%	+1,305
営業利益	2,523	4.4%	2,983	4.5%	18.2%	+460
経常利益	2,847	5.0%	3,214	4.8%	12.9%	+366
棚卸資産影響額 （△は損）	105	0.2%	378	0.6%	-	+272
経常利益 （棚卸資産影響額を除く）	2,741	4.8%	2,836	4.3%	3.4%	+94
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,916	3.3%	2,236	3.4%	16.7%	+320

売上高の前連結会計年度比差異要因

- 販売数量増加に加え、商品単価上昇も影響し、標準在庫品・特注品いずれの売上高も増加、前連結会計年度比9,157百万円の増収。



前連結会計年度比 白銅個別標準在庫品 販売重量：+9.4% 商品単価：+3.4%

品種別売上高

- シェアの拡大に加え、半導体業界の一部需要拡大による販売量の増加、および、原材料価格上昇による商品単価上昇等もあり、全品種において前年4Q期間比で増収。

(単位：百万円)

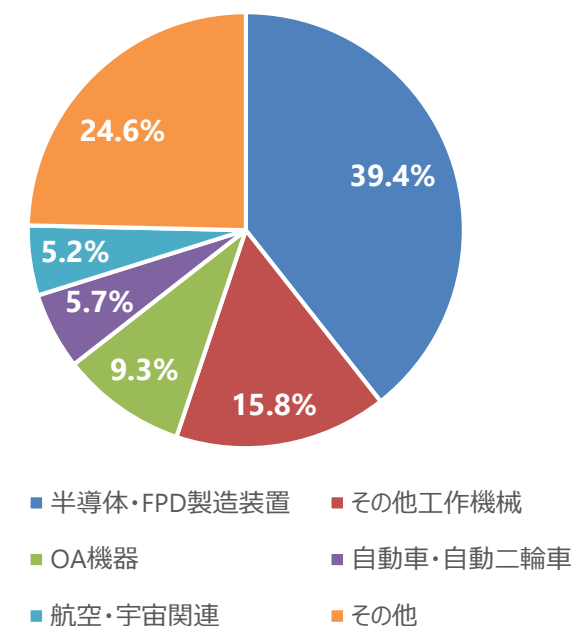
	2024年 3月期				計	2025年 3月期				計	前年 4Q 期間比	前連結 会計 年度比
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q			
連結売上高	14,717	13,991	14,221	14,322	57,253	15,745	16,742	17,665	16,256	66,410	13.5%	16.0%
アルミニウム	9,060	8,339	8,244	8,587	34,232	9,363	10,449	10,984	10,017	40,814	16.7%	19.2%
伸銅	2,138	2,024	2,126	2,141	8,431	2,442	2,312	2,425	2,321	9,502	8.4%	12.7%
ステンレス	2,830	2,971	3,074	2,947	11,824	3,061	3,122	3,347	3,073	12,604	4.3%	6.6%
その他	687	655	774	645	2,764	878	857	908	843	3,488	30.6%	26.2%

業界別売上高構成比率（国内）

- 「半導体・FPD製造装置」「自動車・自動二輪車」「航空・宇宙関連」向けの売上高構成比率が前年4Q期間比で増加。
- その他の業界は前年4Q期間比売上高構成比率は減少しているものの、通期の売上高は全業界で増加。

	2024年3月期					2025年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計
半導体・FPD製造装置	39.3%	38.5%	36.2%	36.4%	37.6%	37.3%	42.2%	43.0%	39.4%	40.6%
その他工作機械	17.7%	17.7%	18.3%	18.0%	17.9%	17.8%	15.6%	14.9%	15.8%	16.0%
OA機器	8.9%	9.0%	8.8%	11.6%	9.6%	10.3%	9.4%	8.7%	9.3%	9.4%
自動車・自動二輪車	4.7%	5.9%	6.3%	5.1%	5.5%	5.1%	5.1%	5.6%	5.7%	5.4%
航空・宇宙関連	4.4%	3.8%	4.6%	4.1%	4.3%	4.3%	4.3%	4.3%	5.2%	4.5%
その他	24.9%	24.9%	25.8%	24.8%	25.1%	25.2%	23.3%	23.6%	24.6%	24.1%

2025年3月期
4Q



セグメント別業績

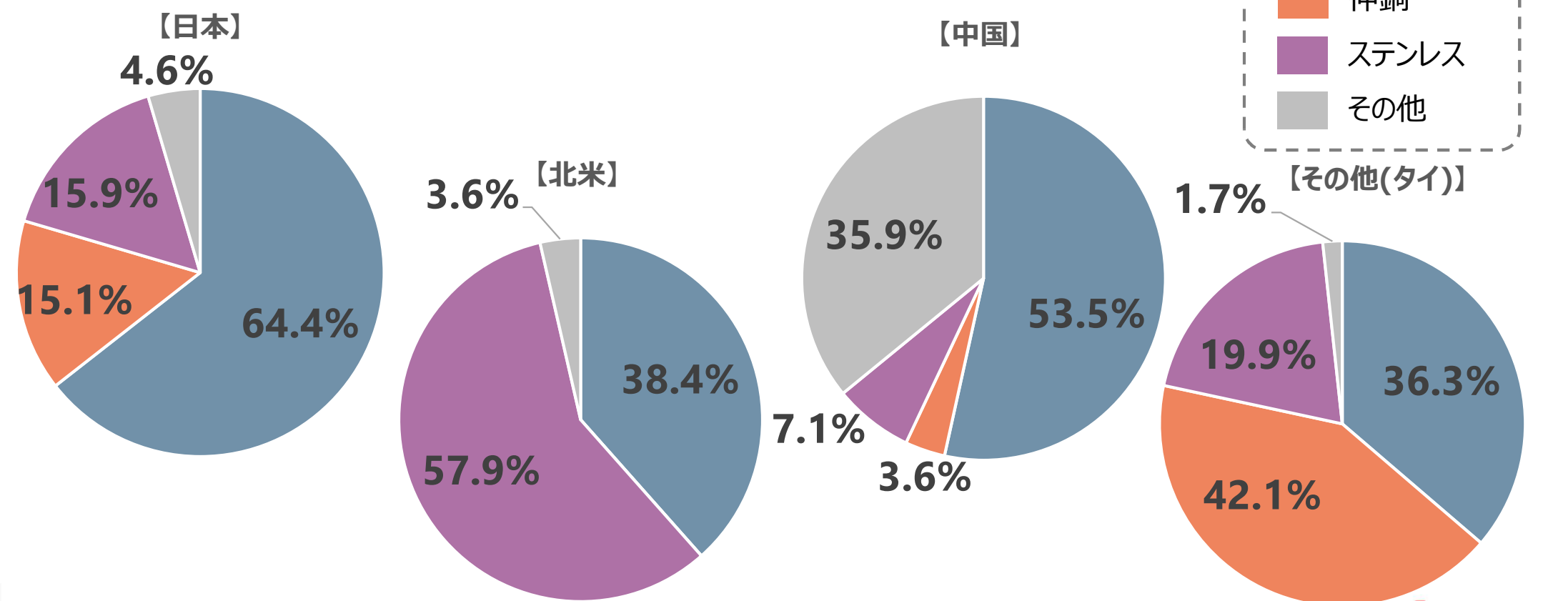
- ・ 北米では、設備投資停滞等による景気低迷が続き184百万円の経常損失。
- ・ 中国は、売上高・営業利益の増加等、前連結会計年度比で業績が改善。
- ・ その他セグメント（タイ）は好調に推移、経常利益が前連結会計年度比で増益。

（単位：百万円）

セグメント	2024年 3月期				2025年 3月期			
	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 当期純利益 または 当期純損失	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 当期純利益 または 当期純損失
日本	49,900	2,627	2,814	1,885	57,910	3,129	3,233	2,275
北米	4,586	△205	△97	△71	5,099	△285	△184	△179
中国	1,360	△39	△9	△11	1,753	△13	13	16
その他	1,405	141	141	114	1,647	153	152	124

2025年3月期 セグメント別 品種売上高比率

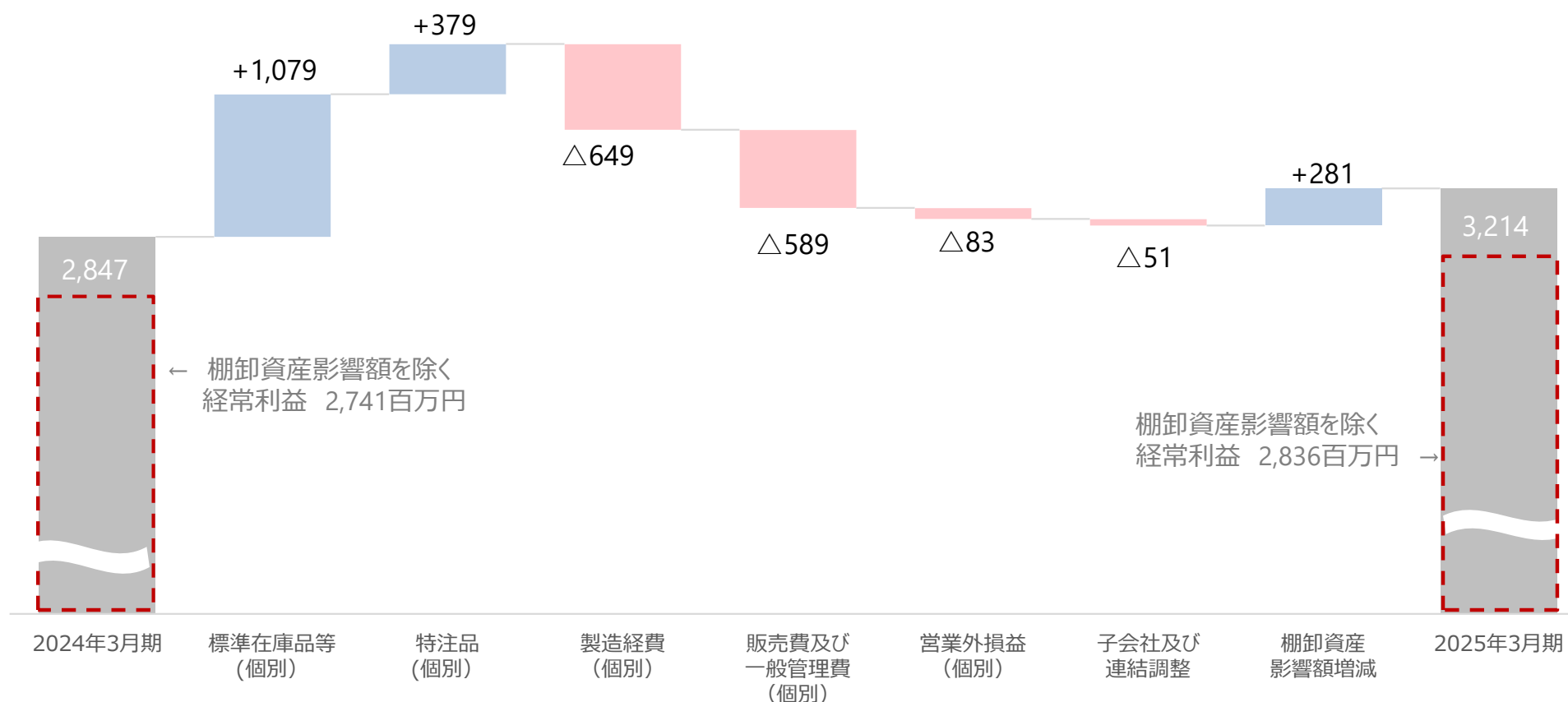
- 【日本】半導体製造装置業界向けの販売比率が大きい影響でアルミニウムが大きな比率を占め、伸銅・ステンレスの売上高比率が同等となっている。
- 【北米】住宅建設関係をメインの販売業界としているため、ステンレスの比率が大きい。
- 【中国】半導体製造装置業界向けの販売がメインとなるためアルミニウム比率が高い。一方で、金型・自動車業界向けの特殊鋼含むその他品種の比率が日本より大きくなっている。
- 【その他(タイ)】金型・自動車業界向けの伸銅が大きな比率を占めている。



経常利益の前連結会計年度比差異要因

- 白銅個別の標準在庫品・特注品が、販売量増加の影響で大きく増加し増益に寄与。
- 製造経費、運賃、人件費等の各種コスト上昇の影響はあるものの、売上高・棚卸資産影響額差益増加の影響もあり、前連結会計年度比366百万円の増益となった。

(単位：百万円)



連結貸借対照表 (BS)

- 売上高増加に伴い、受取手形及び売掛金・棚卸資産・買掛金が増加。

(単位：百万円)

資産の部	2024年3月末	構成比率	2025年3月末	構成比率	増減
流動資産	32,128	76.5%	35,028	78.3%	+2,900
現金及び預金	5,700	13.6%	5,473	12.2%	△226
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	16,052	38.2%	16,833	37.6%	+780
棚卸資産	10,221	24.3%	12,522	28.0%	+2,300
その他流動資産	153	0.4%	199	0.4%	+46
固定資産	9,887	23.5%	9,716	21.7%	△171
有形固定資産	6,653	15.8%	6,404	14.3%	△248
無形固定資産	1,422	3.4%	1,470	3.3%	+47
投資その他の資産	1,811	4.3%	1,841	4.1%	+30
資産合計	42,015	100.0%	44,745	100.0%	+2,729
負債及び純資産の部	2024年3月末	構成比率	2025年3月末	構成比率	増減
流動負債	19,420	46.2%	20,919	46.8%	+1,499
買掛金 (含 電子記録債務)	17,147	40.8%	18,598	41.6%	+1,451
未払費用	788	1.9%	888	2.0%	+99
未払法人税等	324	0.8%	547	1.2%	+223
その他流動負債	1,160	2.8%	885	2.0%	△274
固定負債	114	0.3%	70	0.2%	△44
負債合計	19,534	46.5%	20,990	46.9%	+1,455
純資産	22,481	53.5%	23,755	53.1%	+1,274
負債純資産合計	42,015	100.0%	44,745	100.0%	+2,729

流動資産 +2,900百万円

- 売上高増加による棚卸資産および売掛金の増加

固定資産 △171百万円

- 減価償却による有形固定資産減少
- 円安によるのれん金額増加 (+45百万円)

流動負債 +1,499百万円

- 売上高増加に伴う買掛金の増加
- 未払法人税等増加 (+223百万円)

固定負債 △44百万円

純資産 +1,274百万円

キャッシュ・フロー

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、売上高増加に伴い運転資本は増加しているものの、増益により+1,782百万円となった。
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、国内における設備投資・IT投資などの実施により、△893百万円となった。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により△1,127百万円となった。

(単位：百万円)

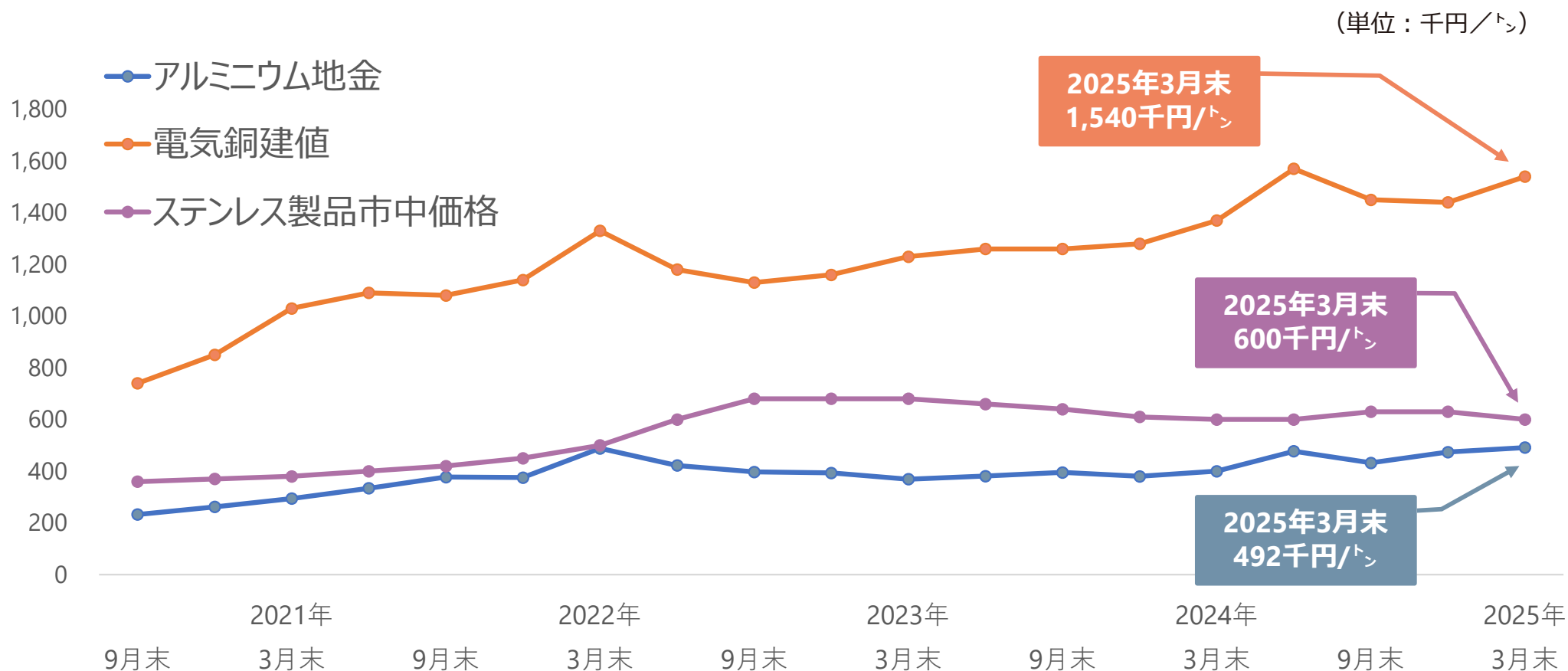
	2024年3月期	2025年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	2,527	1,782
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,612	△893
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,328	△1,127
現金及び現金同等物に係る 換算差額	75	11
現金及び現金同等物の 期末残高	5,700	5,473

<主な内訳>

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー +1,782百万円
- ・税金等調整前当期純利益 : + 3,214百万円
 - ・減価償却費 : + 1,153百万円
 - ・のれん償却 : + 45百万円
 - ・売上債権の増減額 (△は増加) : △719百万円
 - ・棚卸資産の増減額 (△は増加) : △2,198百万円
 - ・仕入債務の増減額 (△は減少) : + 1,374百万円
 - ・法人税等の支払額 : △ 758百万円
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー △ 893百万円
- ・有形固定資産の取得に伴う支出 : △ 678百万円
 - ・無形固定資産の取得に伴う支出 : △ 198百万円
 - ・投資有価証券の取得に伴う支出 : △ 13百万円
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー △ 1,127百万円
- ・配当金支払額 : △ 1,064百万円

事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

- 原材料市況は、足元では激しく変動。
- 直近変動幅の大きい為替相場と併せて、引き続き動向を注視する。



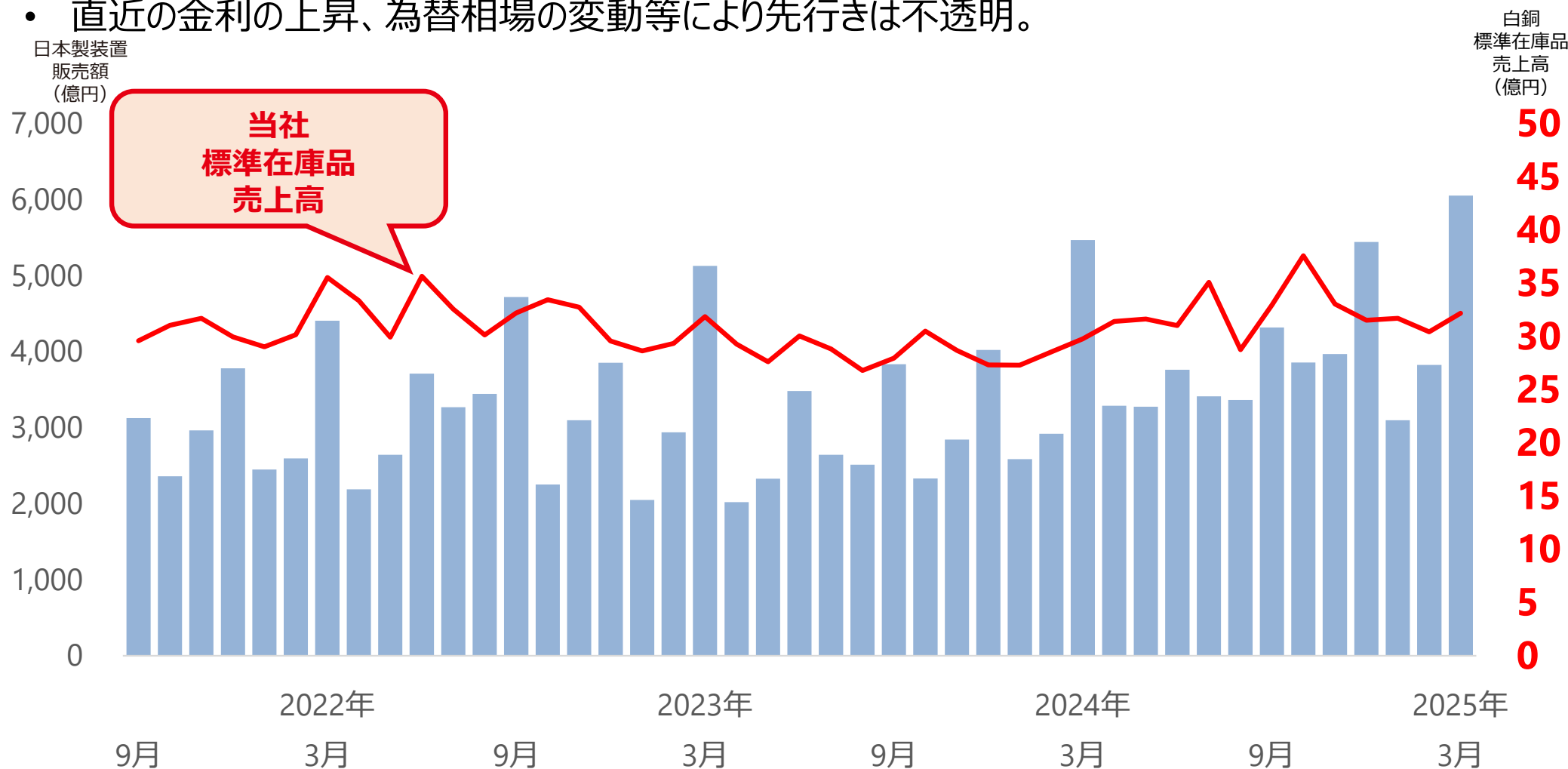
電気銅建値：JX金属による算出 ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値

アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

2025 © Hakudo Co., Ltd. All rights reserved.

事業環境（2）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

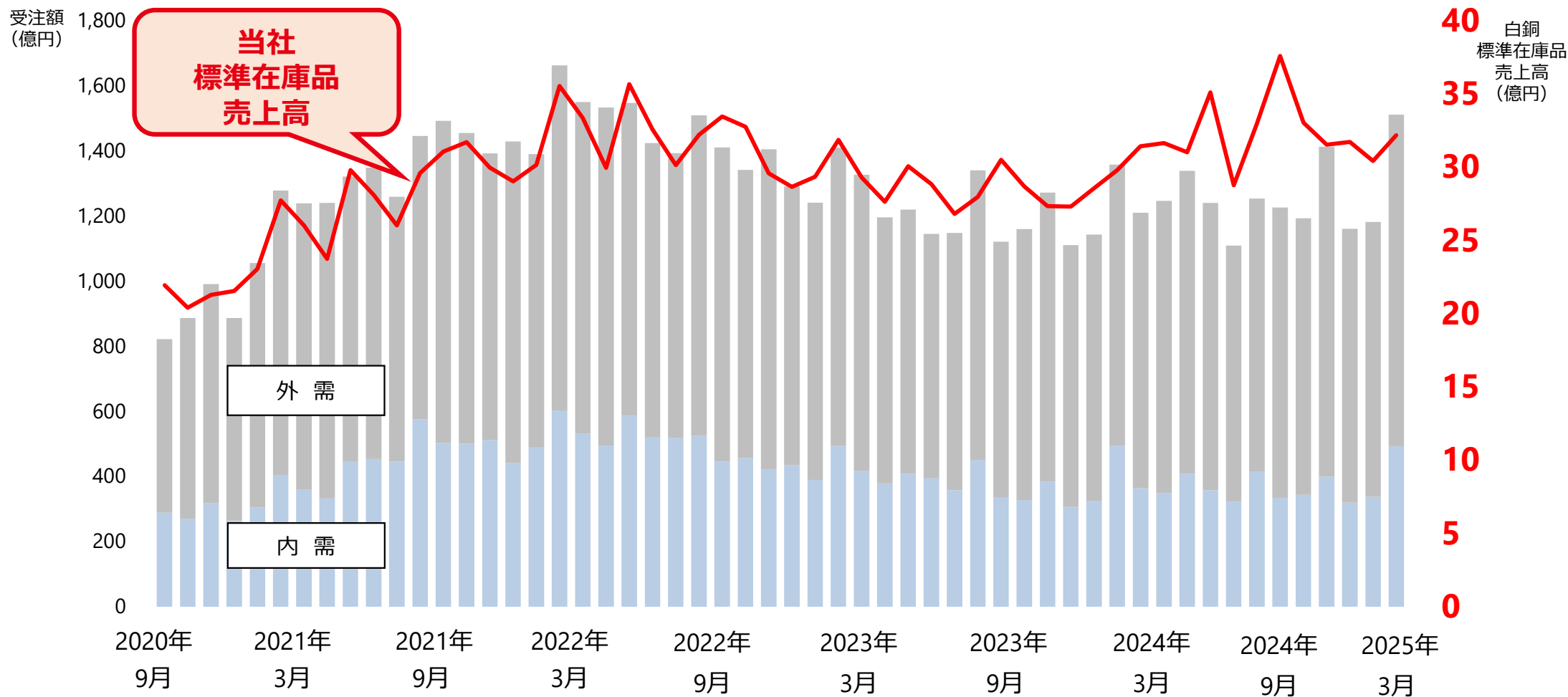
- 生成AI向けおよび中国の半導体用設備投資需要の拡大を受けて一部回復の動きが見られたが、メモリ需要などの低迷により本格的な回復には至っていない。
- 直近の金利の上昇、為替相場の変動等により先行きは不透明。



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

事業環境（3） 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

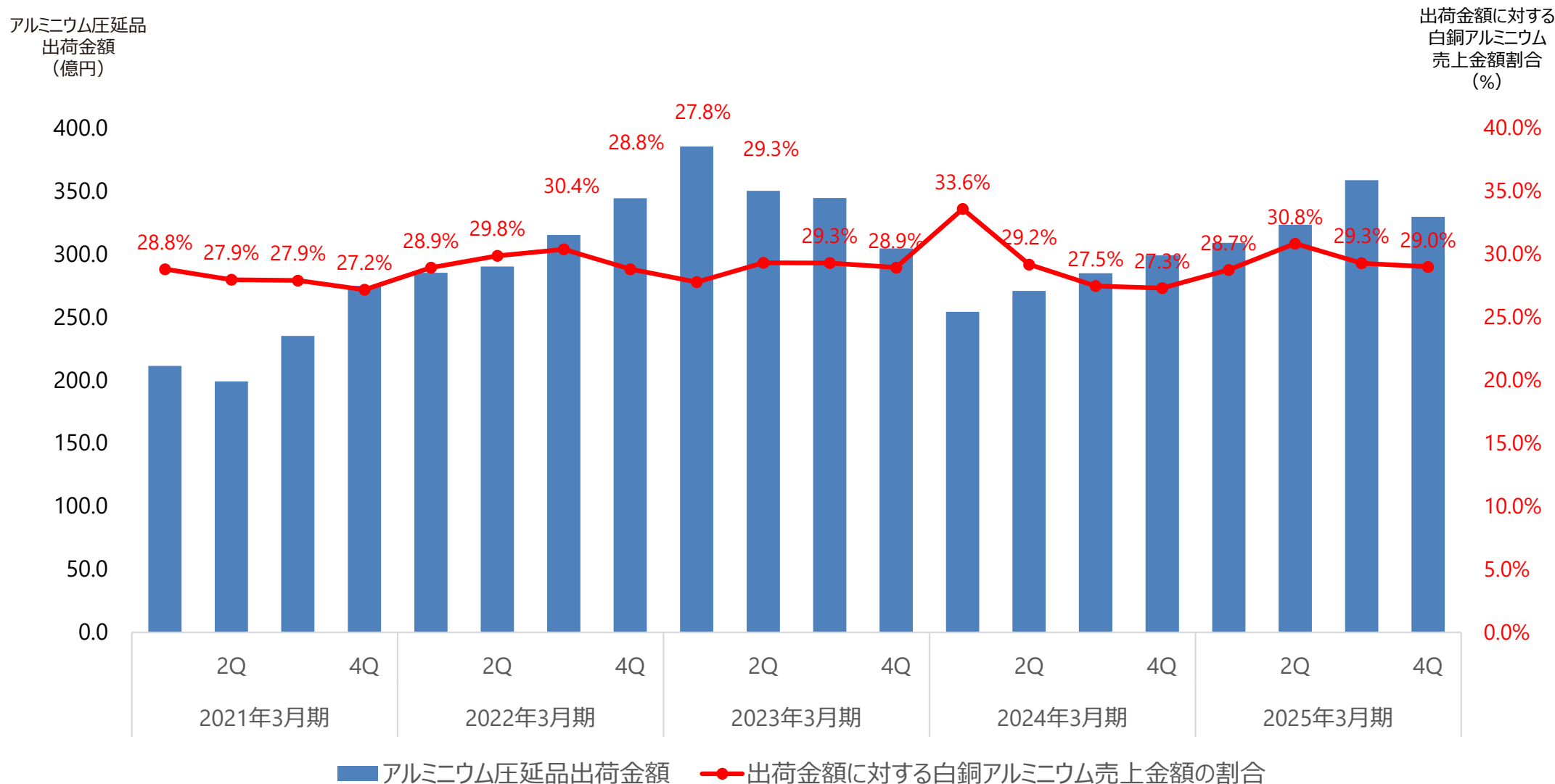
- 工作機械業界は、中国をはじめとするアジア向けなど外需を中心に需要回復が見られた。
- 受注額は前年4Q期間(1~3月)比で内需2.1%増加、外需8.8%増加。



出典：日本工作機械工業会 工作機械統計

事業環境（４） アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

- アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は、引き続き30%前後で推移。



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

2. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績予想

- 半導体製造装置業界の回復遅延等により不安定な外部環境ではあるものの、各種施策によるシェア拡大等により増収増益を見込む。
- 原材料市況の予測は直近の不安定な状況を鑑み予想数値には織り込まず。
- 一方、2025年6月からの材料メーカーおよび自社の価格改定を販売単価上昇要因として予想に算入。

(単位：百万円)

	2025年3月期 実績	売上高 比率	2026年 3月期 第2四半期 予想	売上高 比率	2026年 3月期 通期予想	売上高 比率	対前連結 会計年度 増減率
売上高	66,410	-	36,500	-	75,800	-	14.2%
営業利益	2,983	4.5%	1,580	4.3%	3,230	4.3%	8.5%
経常利益	3,214	4.8%	1,780	4.9%	3,500	4.6%	9.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,236	3.4%	1,200	3.3%	2,350	3.1%	5.4%

※原材料市況の予測は直近の不安定な状況を鑑み予想数値に織り込んでおりません。

株主還元策（配当実績と予想）

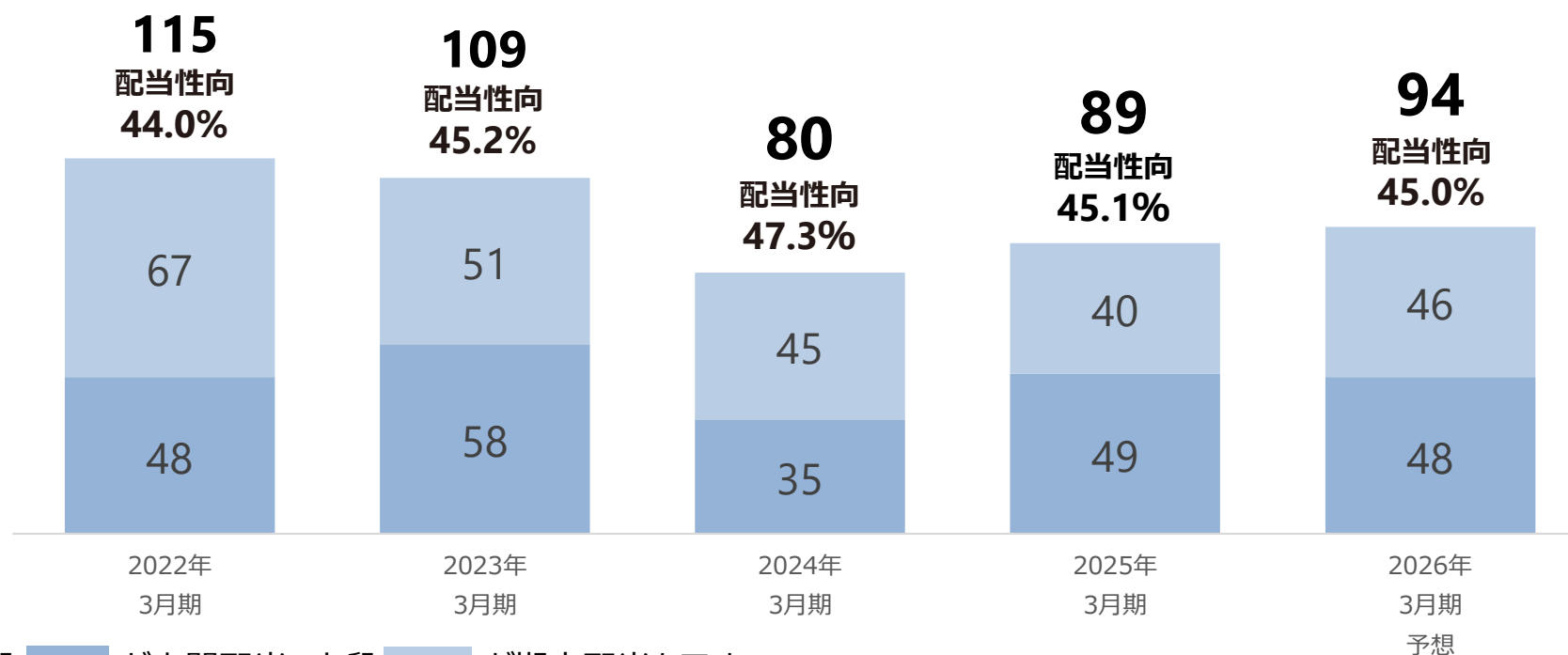
- 2025年3月期年間配当は期初予想から4円増配の1株あたり89円の配当を実施。
- 2026年3月期年間配当は1株あたり94円を予想。

2026年3月期 配当予想

配当方針

・通期配当性向45%以上
・年間最低配当額80円
原則、いずれか高い金額を配当額とする。

(単位：円)



下段 ■ が中間配当、上段 ■ が期末配当を示す。

※2022年3月期は記念配当9円を含む金額

3. 重点戦略の実施状況

重点戦略の実施状況

(1) 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

当社標準在庫品
約**5,500**アイテム
+
他社在庫品(取寄せ)
約**150,000**アイテム

※2025年3月末時点

ご利用企業様数
約**14,900**社様
ご登録ユーザー様数
約**30,000**名様

※CSネットサービスの登録件数を含む
※2025年3月末時点

画面リニューアル
& 新機能追加
使いやすさ改善と
図面加工品の
見積・注文機能強化

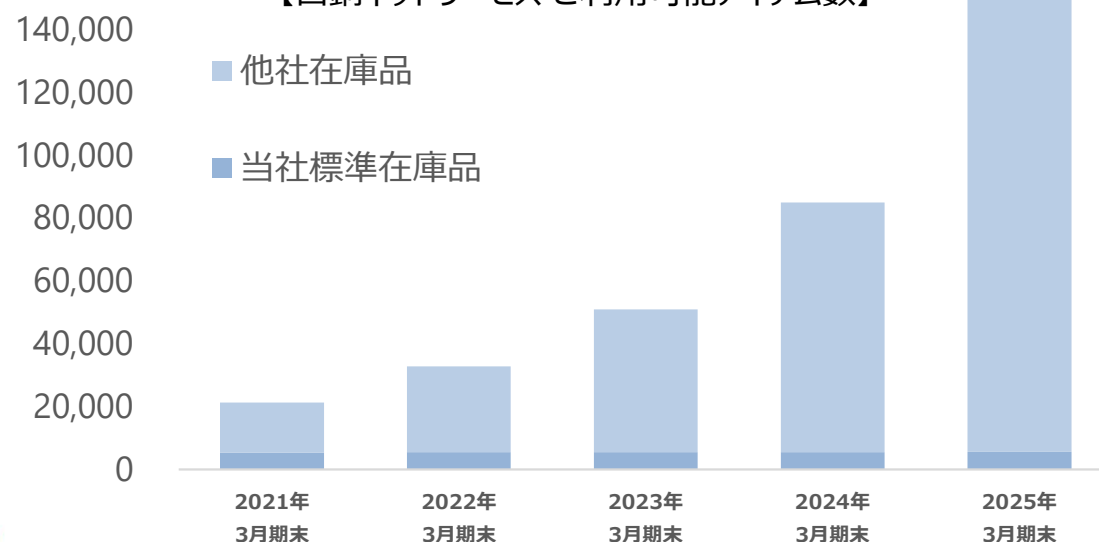
Hakudo Net Service

24時間、365日、お好きな時間
お見積り・ご注文ができる

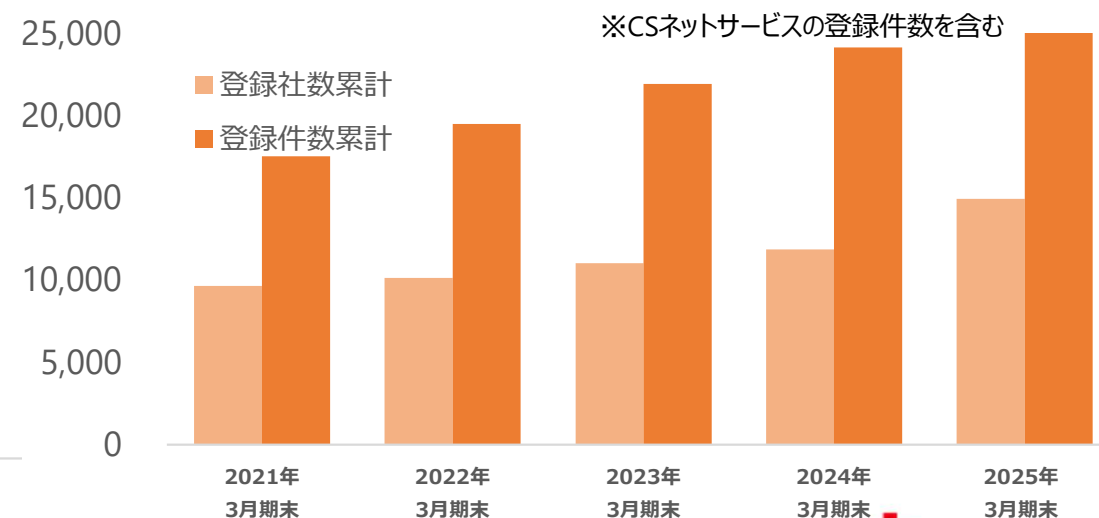
24時間
365日
白銅ネットサービス



【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービス ご利用登録社数推移（累計）】



重点戦略の実施状況

(2) 成長領域の拡大



専門部署による業界の集約

半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築



新規顧客獲得

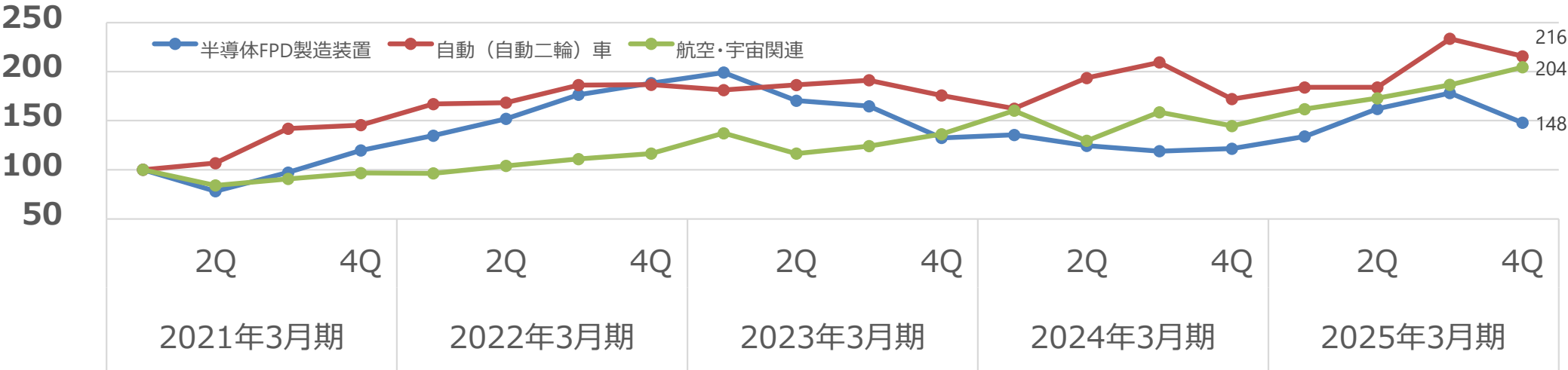
金属3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得し、他商材の拡販も展開



海外材輸入機能強化

WCAS社と連携し、海外メーカー製航空宇宙規格材の輸入機能を強化

【成長領域の売上高指数の四半期推移】 ※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移

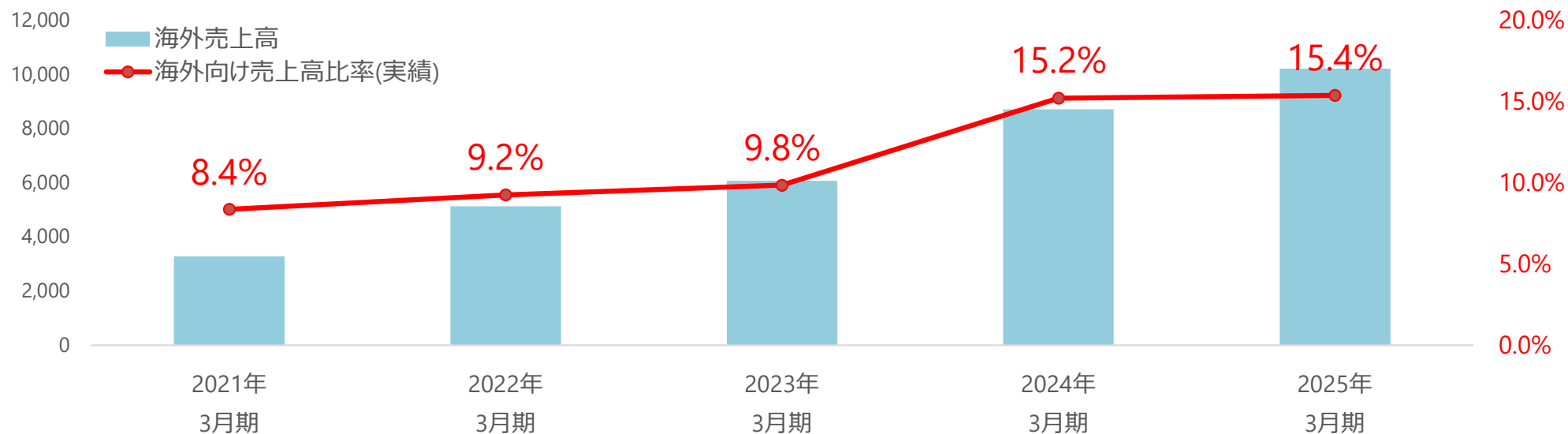


重点戦略の実施状況

(3) 海外事業の拡大

海外事業の売上高と海外売上高比率の推移

(単位：百万円)



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

活動状況

◆ ECパッケージの活用

中国・米国子会社と、ベトナムの出資先でのECパッケージ導入準備中。タイ子会社は導入済み。
マレーシアやインドネシアの代理店での導入も検討中。
その他、韓国・台湾・インド・フィリピンなどにもECパッケージによる販売拡大を計画中。

◆ 事業の拡大

米国では既存の薄板販売に加え、厚板の切断加工品の販売や丸棒の切断販売等事業拡大を計画中。
その他、韓国・台湾・インド・フィリピン等で航空・宇宙規格材料の販売を拡大予定。

4. サステナビリティ経営の取り組み

サステナビリティ経営の取組状況（1/3）

- ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の活動項目や目標に対して、現在までの取り組み状況を下表に記載。取り組み状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動中。
- CO₂排出量は2030年度までの削減目標を前倒しで達成。
- 福島工場に太陽光パネル設置。2025年1月より稼働開始。
- 2025年4月より、社内のCO₂排出量に対する意識向上と排出量削減に対する取り組みを促進させることを目的として「インターナルカーボンプライシング」を導入。

マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期第4四半期までの取組状況
1. 環境負荷軽減・気候変動対応	CO ₂ 排出量の削減	2030年度までに90%削減（2020年度対比） 2050年度までのカーボンニュートラル達成に向け、具体的な削減策を推進	- CO₂排出量 - 自力施策により削減するCO₂排出量	✓ 福島工場の太陽光パネル稼働開始 ✓ 電気自動車（BEV）を計6台導入 ✓ 2024年度、CO₂排出量の削減目標達成(2020年度対比42%削減)
	製造効率の改善	- 天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献を継続 ・ 配送効率改善 ・ 産業廃棄物削減 ・ スクラップ率低下	- 消費電力量 - 運賃低減率 - 廃棄物金額	✓ 設備の待機電力削減 ✓ 配送網の再構築による効率化など配送効率の改善活動を実施 ✓ 環境に配慮した梱包資材の導入 ✓ 切削油リサイクルの施策を継続実施
	オフィスペーパーレス化の推進	- 資源の無駄を排除し、リサイクル化を推進 - コスト削減とともに、自然環境保護へ貢献	オフィス印刷費用	✓ 会議資料の電子化による紙とトナーカートリッジ使用量の削減
2. 責任あるサプライチェーンの構築	環境配慮製品の強化	- 環境負荷に配慮した経営による社会貢献 - 環境負荷の少ない商品（ECO商品等）の企画・導入および安定供給	ECO商品販売重量	✓ ECO商品拡販とECO商品ラインナップ拡充
	グリーン調達促進	サプライヤーに白銅独自のグリーン調達ガイドラインの遵守協力を促進	グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数	✓ グリーン調達ガイドラインのHPへの開示と取引先とのガイドライン順次締結
	サプライヤーとの関係強化	- サプライヤーと協力し、CO₂削減に配慮した施策の実施 - サプライチェーン全体におけるCO₂削減を促進	- グリーンアルミ調達先発掘 - リサイクルアルミ調達先発掘	✓ CO₂排出量を抑えた“ECO63S四角棒”の販売 ✓ CO₂排出量を抑えた商品の導入検討
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を実施	自社における人権ポリシーの策定、運用	✓ 人権デューデリジェンスへの取組み ✓ 白銅グループ人権方針の浸透活動 ✓ 持続可能なサプライチェーンガイドラインのHPへの開示と取引先とのガイドライン順次締結 ✓ サプライヤーへのアンケート調査開始

サステナビリティ経営の取組状況 (2/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期第4四半期までの取組状況
3. 社会への取り組み	次世代への貢献	● 日本のものづくりの発展や人材育成の支援 ● 次世代の技術の発展や人材育成への貢献	● 産学協働の検討案件数	✓ 大学の研究室へ訪問し、協働可能な案件を模索 ✓ 学生向けの工場見学会の開催 ✓ 学生フォーミュラ・ロボコン大会参加学生への金属材料の提供支援
	社会への貢献	● 持続可能な社会への貢献 ● 従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業となるための取り組み	● 地域社会、団体への貢献活動	✓ 寄付の功績に対し内閣府より紺綬褒章に係る褒状を受章 ✓ 寄付型自動販売機による継続した寄付の実施 ✓ 社内の書籍を収集し、古本募金を実施 ✓ 日本赤十字社(能登半島地震義援金)への寄付 ✓ 交通遺児育英会への寄付
4. 人材への投資	従業員満足度向上	● 従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションの向上 ● 社会に与える影響力（社会貢献）、会社の業績に与える影響力の向上	● 離職率 ● 平均残業時間 ● 有給取得率 ● 男性の育休取得率	✓ 有給休暇の取得しやすい環境づくり ✓ 福利厚生に関するアンケートにもとづく、改善策の検討 ✓ スポーツクラブ利用促進のためのサポート継続
	ダイバーシティの促進	● 多様な人材を登用、活用し、組織の生産性や競争力を向上	● 障がい者雇用率 ● 女性管理職比率 ● 外国籍管理職比率	✓ 障がい者向けの職場体験実施により、継続的な雇用を促進 ✓ 女性管理職研修及び女性管理職育成研修の実施検討 ✓ 外国籍従業員の積極的な社員登用の実施
	健康で働きやすい環境の整備	● 従業員の心の健康、身体の健康を促進 ● 社会生活における充実度の向上	● 高ストレス者比率 ● ハラスメント発生件数 ● 労働災害度数率	✓ 健康経営の推進継続（健康優良企業「銀」取得） ✓ アンケート結果による高ストレス要因の分析 ✓ 専門家によるカウンセリングの実施 ✓ 職場巡視の強化によるヒヤリハットの未然防止
	社員教育の拡充	● 業務上で必要な知識・スキルの提供 ● 知識やスキルを身に着ける為の機会の提供	● 一人当たり教育費用	✓ 年間教育計画に基づく教育の実施 ✓ 新入社員研修の充実

サステナビリティ経営の取組状況 (3/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期第4四半期までの取組状況
5. コーポレートガバナンス	違反者ゼロ	● ゼロ・トレランスを目指した教育の実施	● コンプライアンス違反件数ゼロ	✓ コンプライアンス研修の実施 ✓ コンプライアンスにおける理解度チェックの実施
	ポリシー遵守状況確認	● 各方針・ポリシーの遵守 ・白銅グループ人権方針 ・プライバシーポリシー ・コーポレートガバナンス基本方針 ・サステナビリティ基本方針 ・ディスクロージャー基本方針 ・社内環境整備方針 ・教育・育成方針	● 左記の方針・ポリシーの対応状況確認	✓ 教育動画を配信し、全従業員の遵守度向上を推進 ✓ 方針・ポリシーガイドブックの配付
	事業リスク・災害への対応強化	● 事業リスク評価とBCP見直しの徹底 ● 訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みの構築	● リスク評価ポイント ● 全事業所での防災訓練等の実施確認	✓ リスク評価ポイントの見直し ✓ 全社一斉の安否確認訓練実施 ✓ 防災訓練実施 ✓ 工場の水害対策強化を検討
6. ESG/SDGs経営委員会の社内浸透活動	社内浸透活動の推進	● ESG/SDGsに対する意識の向上 ● ESG/SDGsに関する啓蒙活動、イベントの実施	● ESG/SDGsの従業員への浸透率 ● エピソードコンテストの累計件数	✓ サンクスカード導入による、従業員の円滑なコミュニケーションを推進 ✓ ESG/SDGs関連のポスター・書籍・動画の配付・配信 ✓ 植林・環境系ボランティア活動の調査 ✓ 当社事業所周辺の清掃活動に参加
7. ESG/SDGsに関連した新商品・新サービスの創出	商品・サービスの具現化	● 新商品・新サービスの創出	● 新商品・新サービスの導入件数	✓ FIT非化石証書の仲介販売開始 ✓ CO₂オフセット関連の商品・サービスを検討中

サステナビリティ経営の取り組み例

白銅は、モノづくりを通じた社会への貢献に加えて、白銅ファームによる雇用創出など幅広い活動を行っています。

白銅ファーム



白銅は障がい者就労促進の一環として白銅ファームを運営しています。神奈川県横浜市と埼玉県三郷市に拠点を設け、2025年3月現在、12名の従業員が在籍しており、葉物野菜をメインに約30種類を栽培しています。

収穫した野菜は、子ども食堂への寄付や当社従業員に配付しています。

※ 2025年3月末時点の情報を元に作成

スーパーミニマム チャレンジ



スーパーミニマムチャレンジとは、50ccエンジンによる最速記録に挑戦するプロジェクトです。米国ユタ州のボンネビルで毎年開催されています。

バイクには白銅が提供したアルミ材が使用され、2019年大会では世界最速記録を更新しました。

最近では、3Dプリンター造形部品も使用されています。

コマ大戦



コマ大戦とは、全国の製造業者が制作したコマを持ち寄って戦うトーナメント式の大会です。各県で高校生コマ大会も開催されています。

神奈川県高校生コマ大戦には白銅が材料を支給して協賛するなど、日本のモノづくりの発展のための活動を行っています。

下町ボブスレー



下町ボブスレーは、大田区の小さな町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、産業のまち大田区の「モノづくりの力」を世界に発信するプロジェクトです。

下町ボブスレーの材料は白銅が無償提供しており、製作されたボブスレーは2023年1月の世界選手権で19位の成績を残しました。

(写真提供：国際ボブスレー連盟 IBSF)

ご清聴ありがとうございました

■白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。
右記のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！

■本資料における注意事項

この資料には、2025年5月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競争状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■お問合せ先

白銅株式会社 経営企画部
メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp
ホームページ：www.hakudo.co.jp

